

令和6年度 第1回高山市環境審議会 議事要旨

日 時 令和6年7月2日(火) 10時～12時

会 場 高山市役所4階 特別会議室

出席	大森 清孝	国土交通省 自然環境アドバイザー
	中田 和子	高山商工会議所女性会
	表 英代	高山市教育研究会
	井上 博成	飛騨高山小水力発電株式会社
	中村 健史	高山市民憲章推進協議会
	鴻巣 明久	高山市農業委員会委員
	河渡 正暁	高山市快適環境づくり市民会議
	中川 正	高山市森づくり委員会委員
	小瀬 洋美	荘川町まちづくり協議会
	山田 倫章	中部電力パワーグリッド(株)
	脇本 裕司	濃飛乗合自動車(株)
	戸田 里美	一般財団法人岐阜県公衆衛生検査センター
	竹内 ゆみ子	認定NPO 法人 まちづくりスポット
	安田 明弘	岐阜県飛騨県事務所

計14名

事務局	高山市副市長	清水 雅博
	森林・環境政策部長	小林 一正
	環境政策課長	清水 浩一
	森林政策課長	村田 重春
	環境政策課環境政策係長	小野 貴史
	ごみ処理場建設推進課生活環境係長	北野 千恵
	ごみ処理場建設推進課ごみ処理場建設推進係長	堤 一雄
	資源リサイクルセンター廃棄物対策係長	小椋 政幸
	環境政策課環境政策係	中澤 久樹

- 次 第
1. 開会(市民憲章朗唱)
 2. 副市長あいさつ
 3. 議事
 - (1) 令和6年度の環境施策について【資料1】
 - (2) 高山市環境基本計画について【資料2】
 - (3) 令和6年度 脱炭素先行地域づくり事業の状況について【資料3】
 4. その他
 5. 閉会

1. 開会（市民憲章朗唱）

清水環境政策課長

2. 副市長あいさつ

清水副市長

3. 議事

(1) 令和6年度の環境施策について

事務局(環境政策課 清水課長)より、資料1の説明

質疑応答等の内容は、以下のとおり

(竹内委員)

資料1の3ページ目、ごみの資源化推進について、プラスチック製品の回収や資源化の状況を教えてほしい。

(小椋係長)

プラスチック製品を資源化する法律が成立し、国を挙げての取り組みが進んでいる。高山市は現在、プラスチック製品を不燃ごみとして出してもらっている。プラスチック容器包装は、10年以上前から資源化に取り組んでいるが、プラスチック製品についても、資源化の検討を進めているところである。

(河渡会長)

プラスチックごみが多くなっており、引き取ってもらうための会社の経費負担が大きくなっている。

(河渡会長)

資料1の2ページ目、匠の家づくり支援事業補助金について、新築も改築も対象となるのか。

(村田課長)

元々、新築も改築も対象であるが、令和6年度から梁や柱等の他に内装材も新たに補助対象に追加した。

(2) 高山市環境基本計画について

事務局(環境政策課 小野係長)より、資料2の説明

質疑応答等の内容は、以下のとおり

(大森委員)

基本計画なので、非常に多岐にわたる分野をまとめているが、項目分けをすると必ず漏れる項目が出てくるので、計画を見直す中で、項目を付け加えるなど、漏れが無いようにしてもらいたい。

生物多様性の保全には、色々な内容がある。特定外来生物のオオハンゴンソウやオオキンケイギクの駆除を実施しているが、特定外来生物は、他にも存在している。例えば、川を見るとブラックバス、コクチバス、ブルーギル、ブラウントラウト、チャネルキャットフィッシュの5種類が水系の特定外来生物として、かなり深刻な状況である。直接事業が実施できないにしても、項目をリストアップしておかないと漏れになってしまう。

100年先の森林づくりについて、1番の問題は、山の土である。戦後の大規模な伐採後、大規模な植林を行った。その後、間伐が思うように進まず、山が荒れている。畑作業を見てももらえれば、土づくりが1番大切であることが分かる。森林づくりの中でも、土づくりの考え方が必要である。本来は、木の葉っぱが落ちて、落ちた葉が腐って、土になるというサイクルがあるが、針葉樹を一斉に植栽しているので、土ができない。

土づくりの第1歩として、切り捨て間伐を実施するくらいならば、林内でチップにして、撒いてきてほしい。その方が切り捨て間伐の丸太より早く土に戻る。状況把握のため、黒い土の厚さを測っている。郡上市では、厚いところで60cm、薄いところで30cmあるが、飛騨地方の人工林は、5cmから10cmしかない。100年先の森林づくりは、非常に大切であるが、何が根本的な問題なのかを整理して進めていただきたい。

(河渡会長)

私の父が木材を取り扱っており、1番良い土を作るには、ブナとナラのような広葉樹が良いと言っていたが、今は針葉樹ばかりの山になっている。

(表委員)

新ごみ処理施設の整備について、自由に見学ができると記載してあるが、どのような見学方法を考えているのか、決まっていれば、教えてほしい。

(堤係長)

パネルや映像が見えるモニターを設置して、誰でも自由に入れるような待合場のようなスペースを作る。そこに自由に出入りして、ごみ処理場の施設や環境の学習をしていただけるような施設を考えている。

(表委員)

学校で浄水場や下水道センター等も見学している。子どもたちが実際の施設や働く人たちの話を聞けることはありがたい。家に帰って、保護者に話すことで、保護者も見学してもらえるようになり、家族の意識も変わらと思う。

(鴻巣委員)

自然環境の面で色々な補助制度があるが、実際に有機栽培しようと思うと難しい。10kgから20kgは、収穫できるが、いもち病などの病気にかかってしまうので、採算が取れない。趣味で野菜を栽培するのならば、良いかもしれないが、農業として、野菜を販売して収益を上げようとするとなると難しいところがある。私の同級生でJASを取得して有機無農薬栽培しているので、市の農政部と一緒に勉強会などを進めたい。

また、西之一色生産森林組合で昔から間伐を実施しているが、松倉山は、岩山で木が育たないうえにマムシも多いので、山に入るときは気を付けてほしい。

新聞で国府中の子どもたちがトイレが和式で大変困っていて、学校で1回もトイレに行っていないという記事を見た。国府中以外でも、40年くらい前に建設された小中学校は同じ状況なのではないか。子どもが学校に行くのにトイレが嫌では、人に優しい環境とは言えない。もっと身近な問題を考えてほしい。

(安田委員)

今までの第3次計画までの積み重ねがあり、基本的な部分は整理されているので、第4次計画の策定に向けては、委員の皆様方の意見等で足りないところを補って、最近の環境情勢等で話題となっているトピックを取り入れるような方向性で委員会で話し合えたら良い。

(脇本委員)

中部山岳国立公園の活性化で松本高山 Big Bridge 構想(北アルプストラバースルート)が盛り込まれていることは良いと思う。森林づくりは、基本中の基本であり、脱炭素は、これから進めなければいけない課題である。喫緊の課題であるごみ処理施設や環境教育も入っているので、非常にバランスが取れている。

(小野係長)

環境基本計画の見直しについては、現行の計画で概ね網羅されているので、現行の計画を踏襲しながらバージョンアップする方向で進めていきたい。見直しの際には、人づくりの視点を入れながら、新しい取り組みなどを踏まえて、練り上げていきたい。

(小林部長)

本日の委員の皆様からのご意見を踏まえて、今後、もう少し練り上げて、骨子を作成し、夏頃、高山市議会の委員会に諮りたい。資料2の1ページ目の守りはぐくむ 豊かな自然とやさしい心 生命かがやく飛騨高山の、生命かがやくの部分が必要だと思う。高山市では、第9次総合計画の策定も同時に進めているが、今までは、まちづくりに重点を置いていたが、やはりまちは人から成り立っているので、人づくりが大切であり、人の幸せを重点として取り組みたいので、次回の委員会においても、ご意見を聴かせていただきたい。

鴻巣委員からご意見いただいた小中学校の和式トイレについても、教育委員会に確認したい。

また、荘川の産業廃棄物処理場については、皆様に心配していただいている。これからプラスチックを資源化して、再利用しなければいけない中、プラスチックを埋め立てて、何十年も地下へ溜めておくという最終処分場の考え方は、これからの時代に合わない。資源化の観点でも対応していきたいと考えている。

(3) 令和6年度 脱炭素先行地域づくり事業の状況について

事務局(環境政策課 中澤)より、資料3の説明

質疑応答等の内容は、以下のとおり

(井上委員)

小水力発電所を整備するためには、地域の皆様や漁業組合の皆様のご理解が必要であり、1つ1つ丁寧に合意形成を進めている。事業全体の方向性が整理されているので、7月から8月にかけて、相手先との説明会の開催などの機会をいただけるように調整している。

電力の切替については、経済産業省から飛騨高山電力株式会社の小売り電気事業者としての認可をいただいている。現在は、ホームページの開設や電気の需給管理システムの構築などの事務作業を進めており、今年度は、11月くらいから久手町内会、巣野俣町内会、塩屋町内会の電力切替を目指している。

普及啓発事業は、環境省とCO2削減効果の難しい調整を乗り越えて、ウェルビーイング事業を実施できるように進めている。

(山田委員)

再エネ自給率見える化サービスは、今年度、できるだけ早く導入できるように調整を進めていた。元々、中部電力パワーグリッド株式会社が見える化サービスを準備しており、高山市が第1号で進めている。

先般、見える化サービス開始のプレスリリースを実施した。高山市にサービスが提供できるタイミングと同時にプレスリリースの予定であったが、環境省の補助金の関係で、実際の運用が秋以降となった。

これまでの調整の中で、元々の見える化サービスでベースとして考えていた郵便番号で見える化するサービスに加えて、高山市内の地域毎でも分かるようにした。まだ、一般に公開するタイミングでは無いが、もし希望があれば、お見せすることができようになっている。

(河渡会長)

CO2削減効果は、どれくらいになるのか。

(中澤)

元々、環境省へ年間101t削減で提出していた。101tの考え方は、今年度当初から5年間の普及啓発事業を実施することで、5年後以降に脱炭素先行地域計画提案書に記載したCDランクの小水力発電所10か所が整備されるというストーリーを描いたうえで、CDランクの発電量の1%を換算している。

環境省からは、小水力発電所などの再生可能エネルギー設備が完成してから普及啓発事業をするべきとの見解が示され、普及啓発事業を実施することによって、どのように人々の行動が変わって、その結果、

どれだけの CO2 が削減されるというような考え方で見直すように指示を受けている。見直しにあたっては、井上委員や中部電力パワーグリッド株式会社と一緒に根拠を説明できるような CO2 削減量の算出を検討している。

(井上委員)

考え方の見直しの議論で非常に難しい前提条件は、脱炭素先行地域づくり事業の補助金で整備する AB ランクの小水力発電所の CO2 削減効果と普及啓発事業の CO2 削減効果の重複が認められていない事である。普及啓発事業を実施することで、地域の方が参加し、脱炭素行動に取り組む事で、どれだけの CO2 が削減されるという想定の数値を計算することが課題となっている。

(河渡会長)

会社のエアコンで環境省の補助金をいただいた際にも、CO2 削減結果を提出した。

(小林部長)

脱炭素先行地域の電力供給量は、市全体の総電力量の5%くらいである。普及啓発事業は、市全域ゼロカーボンに向けて、ウェルビーイング事業や再エネ自給率見える化サービスを実施する事で、皆様の脱炭素に対する意識が高まり、節電や EV 自動車の購入、LED への切替などの波及効果を期待している。

(中村委員)

小水力発電所を整備したところで、すぐに CO2 削減に繋がる訳では無く、そんなに期待されても困ると思う。脱炭素先行地域は、高山市の関係者が頑張って取り組む意欲を環境省が認め、選定された。その取り組みを分かりやすく次世代に向けてアピールしてほしい。多くの方々に知っていただいたうえで、協力を仰ぐべきであり、それぞれの立場で参画できる事を考えていただく必要がある。目指している未来があるので、全力で事業を実施しているという描きを持ち続けて、少しずつでも良いので、発信してほしい。

(大森委員)

小水力発電は、普及が難しいと心配していたが、ここまで、小水力発電所を増やしてきた井上委員のご苦勞に敬意を示したい。過去の環境審議会では、再生可能エネルギーによる発電と同時に電力消費量をどうやって減らせば良いのかという議論もあったと思うが、今は、電力消費量を減らす議論が無くなった。

再生可能エネルギーの発電量を増やす事も大切であるが、電力の消費量を減らすことは、もっと重要である。議論すべき項目として、もう一度、考えていただけると有難い。

(山田委員)

住宅の断熱が電力の省エネルギーの余地があるのではないかとされている。企業では、あらゆる手段で消費電力を減らす努力をしているが、一般家庭では、まだまだ減らせると思う。住宅新築後は、あまり手を加えなくなってしまうので、家を建てる時に断熱の補助を出す政策もあると思う。

第3次環境基本計画にも建築物の省エネルギー対策の推進が挙げられており、切り口になるかもしれない。最初のコストがかかるが、実効性は非常に高いと思う。

4. その他

無し

5. 閉 会

森林・環境政策部 小林部長